

## データセンター向け特殊空調で攻勢

八洲電機はインフラソリューションビジネスユニット(BU)で、強みとする空調機器の新規領域開拓を進める。とくにデータセンター向け特殊空調を成長分野と位置づけ、自社の持つ設計サポート能力などを活用し収益力強化へつなげていく。温度・湿度維持機能のほか、震災時でも稼働できるように電源設備を含めた提案を行うことで、ICT(情報通信技術)技術などの発達により需要増が見込まれる同分野での採用実

### 八洲電機

績を積み上げること狙いとしている。

八洲電機は電気制御、環境、交通、情報、エネルギーへの知見をコアに製品供給と技術提供を手がけている。プラント、産業システム、社会インフラ、電子デバイス・コンポーネントの4セグメントを軸にビジネスを展開する。

強化に向け、今春にはBU制度を導入した。エンジン「アリンク」インフラソリューション」の2本柱で構成し、専門部隊による機動化・効率化を進めつつ、商機の拡大や既存事業の高付加価値化を図っている。

社会の発展にともない需要の増加が見込まれるデータセンター設備用の特殊空調機器を成長分野と位置づけた。主力商材の日立グループ製品を軸に、安全性や高耐久性、特殊環境への対応力を訴求する。

同BUでは、産業システム事業部、設備ソリューション事業部、交通システム事業部の3事業部を擁し、産業システムと社会インフラを対象セグメントとする。顧客ニーズの吸い上げを進めるなか、スマートフォ

ンなど情報端末におけるデータ情報量の増加や、それにもなうデータセンターのサーバー設備巨大化に着目。ICT、IoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)など最新技術の普及を背景に、同領域での空調設備の需要増が期待できると判断した。

同社はデータセンター向け設備の提案を強化し、同BUの収益力強化へと反映させる。大地震など災害発生時でも稼働できるように、制御盤や電源設備への知見も活用し、設計段階からパツテリー付属型設備の提案も行うなど差別化を図る。

## 災害時対応、設計から提案